



平成28年11月9日

各 位

会 社 名 株式会社リンコーコーポレーション  
 代 表 者 名 代表取締役社長 南 波 秀 憲  
 (コード番号 9355 東証第二部)  
 お 問 合 せ 先 専務取締役 山 下 和 男  
 (TEL. 025 - 245 - 4112)

平成29年3月期第2四半期連結業績予想数値と実績値との差異及び  
 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成28年5月13日に公表いたしました平成29年3月期第2四半期の連結業績予想数値と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、最近の業績動向や社会情勢を踏まえ、平成29年3月期通期の連結業績予想を修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 平成29年3月期 第2四半期(累計)連結業績予想数値と実績値との差異  
 (平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(百万円未満切り捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回公表予想(A)	百万円 8,000	百万円 210	百万円 195	百万円 145	円 銭 5.38
今回実績(B)	8,029	317	322	268	9.96
増減額(B-A)	29	107	127	123	
増減率(%)	0.4	51.2	65.3	85.4	
(ご参考)前年同期 (平成28年3月期 第2四半期)	8,360	353	354	254	9.44

2. 差異が生じた理由

平成29年3月期 第2四半期累計期間の連結売上高は、前回予想に比べて2千9百万円の微増となりました。差益面では、運輸部門におきまして、新潟東港における一般貨物の取扱いが前回予想より減少したものの、当社の臨港埠頭における一般貨物の取扱いは増加して差益が拡大したこと、ホテル事業部門におきましても、電気・ガス料金が想定より低く推移して水道光熱費の負担が減少したことが主な要因となり、営業利益、経常利益ともに前回予想よりも増益となりました。

これらの結果、当第2四半期の営業利益は、前回の予想よりも1億7百万円増加し3億1千7百万円、経常利益は、1億2千7百万円増加し3億2千2百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前回予想よりも1億2千3百万円増加し2億6千8百万円となりました。

3. 平成29年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(百万円未満切り捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想（A）	百万円 16,450	百万円 380	百万円 340	百万円 260	円 銭 9.64
今回修正予想（B）	15,800	420	400	290	10.75
増減額（B - A）	650	40	60	30	
増減率（％）	4.0	10.5	17.6	11.5	
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期)	16,491	566	536	404	14.98

4. 修正の理由

下期につきましては、当社の事業基盤であります新潟県内の景況感が改善する兆しが依然として見られず、厳しい状況が続くと見込まれます。また、第2四半期まで堅調に推移した臨港埠頭における一般貨物の取扱いが減少する見込みであり、新潟東港におけるコンテナ貨物や一般貨物の荷動きも本格的に回復する兆しは乏しい状況であると判断されます。

また、機械販売部門も、前回予想では、平成29年4月からの消費税増税を見越して、下期に大型建機販売の受注件数が増加する見込みでしたが、消費税増税が延期されたことで販売受注件数が減少することが予想されます。

ホテル事業部門におきましては、株式会社ホテル新潟は、下期において、上期と同様の売上高・差益は見込めず、株式会社ホテル大佐渡も、例年通り、1月初旬から2月末までは宿泊の営業を停止いたします。

これらのことから、平成29年3月期通期の連結業績予想につきましては、売上高は前回予想よりも6億5千万円減少の158億円に修正いたします。また利益面では、下期において売上高の減少の見込みに伴い、上期のような伸びは見込めない状況であることから、通期の営業利益は前回予想から4千万円の増加にとどまり4億2千万円、経常利益も6千万円増加の4億円、親会社株主に帰属する当期純利益は3千万円増加の2億9千万円に修正いたします。

(注) 上記予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上